道徳参観日　３年「どうか、生きていてくれよ」

１０月２３日（金）に道徳科の時間に，「どうか、生きていてくれよ」という話をもとに，命の大切さについて考えました。この話は，消防士である岡村さんが火事の中に取り残された子どもを「絶対に助けたい」という強い思いをもって救助し，命の大切さを改めて実感するという内容です。授業では，自分の命を危険にさらしてまでも子どもを助けようとした岡村さんの思いについて考えました。

子どもたちは，自分の命を危険にさらして助けに行った岡村さんの救助にかける思いを想像する中で，「自分の命も大切だけど，子どもの命も大切」「自分が助けに行かないと子どもは命を落としてしまう」「家族の人が悲しむから絶対に助けたい」ということに気付きました。

授業の終わりには，「一つしかない自分の命をどう生きていきたいか」について考えました。子どもたちの記述には，「命を無駄にするようなことはしない」「自分の命もほかの人の命も大切にしたい」「今ある命を当たり前と思わないようにしたい」などという内容がありました。

かけがえのない命を大切に一日一日過ごしてもらいたいと思います。





